

令和3年度 花園保育園 自己評価分析と今後の課題

園内評価より	
I 保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よくできている」「まあまあできている」の割合が増加。中でも環境の構成の評価が軒並み上昇。子ども主体の保育を続ける中で、環境の大切さに気付き、DIYなどの創意工夫を行った結果だと思われる。</li> <li>・園長や主任との話し合いが少ないのが課題</li> </ul>
II 保育の在り方、幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもへの関わりは全体的に評価が高い。</li> <li>・その中でも「禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせる言葉や態度はできるだけ控えている」を「あまりできていない」評価をする職員に対しての個別フォローが必要である。</li> </ul>
III 保育者としての資質や能力・良識・適性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの職員が、保育者としてのマナーや義務の理解、組織の一員としての自覚は有と評価。</li> <li>・この項目においても自己評価が低い、または無回答の職員に対しての個別フォローが必要である。</li> </ul>
IV 保護者への対応・守秘義務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね保護者への対応守秘義務についての評価は高い</li> <li>・協力と支援の「必要な場合は、自園の苦情解決システムについて保護者に説明できる」について昨年度より評価が下がっているため、再度の周知が必要。</li> </ul>
V 地域の自然や社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々との挨拶などは「できている」と評価。</li> <li>・小学校との連携について評価がばらついており、担当する子どもの年齢によって興味関心を持つ度合いが変わってくるのが推察される。小学校との連携について全職員が興味を持てるような工夫が必要である。</li> <li>・また専門機関との連携意識が薄いことも課題。</li> </ul>
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ねできているという評価が多い。</li> <li>・環境構成にもつながるが、外部講師を招いての環境についての園内研修を重ねた結果、専門性に関する意欲態度が向上したようである。</li> <li>・保育の専門知識以外への関心について高い評価が多かった。</li> </ul>
VII 保育の在り方、3歳未満児への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての項目において「できている」という評価が多くみられる。</li> </ul>

利用者評価より	
★家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回答の傾向として「どちらともいえない」が増加。コロナ禍の中で、園内に入れず、送迎も玄関先になってしまったことも原因の一つと考えられる。</li> <li>・ 子育ての悩みについても保育者に相談できると回答した家庭が8割。保育者の自己評価とも一致する。</li> </ul>
★カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園の基本方針や保育方針に関して、「知っている」「少し知っている」との回答が9割。また、わが子が充実した園生活を過ごしていると感じている家庭も9割。しかし1割程度が「知らない」「よくわからない」と回答していることより、園の基本方針についてのより分かりやすい提示の仕方が求められている。</li> <li>・ 園が子どもの人権を守っており大切にしているという評価は9割、園内の評価とも一致する。</li> </ul>
★環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園内の清掃環境、雰囲気に関しては高評価であるが、「どちらともいえない」という回答が例年に比べて目立つ。やはり園内に入れないことが影響しているようである。</li> <li>・ 保育者のコミュニケーションや言葉遣い、あいさつについても概ね評価が高いが、1～2割程度「気になる」「どちらともいえない」がみられる。こちらもコロナ禍での保護者と保育者とのやり取りが難しくなったことに起因すると思われる。</li> <li>・ 保育者側が自己満足に終わることなく、利用者との関わりをもう一度園内で見直すことが必要である。</li> </ul>

※令和3年度の利用者アンケートも、メール連絡網を使ったオンラインでの回答となった。回収率は67%となり、平成30年度水準まで回復。コロナ禍が進む中で、オンラインの活用が浸透してきた結果かと思われる。